

和泉市 人権問題に関する市民意識調査 調査結果報告書 【概要版】

1 調査の目的

平成 29 年度に策定した「和泉市人権教育・啓発推進計画」が、令和 8 年度で計画期間が終了するにあたり、改めて人権問題、日常生活の現状や意識を把握し、次期計画策定の基礎資料とするため実施しました。

2 調査対象

本市住民基本台帳に登録されている満 18 歳以上の市民から無作為に抽出した 3,000 人

3 調査期間

令和 7 年 12 月 11 日～令和 8 年 1 月 8 日

4 調査方法

郵送配布、郵送・WEB 併用回収

5 有効回答数

調査対象	配布数	回収数	回収率
本市住民基本台帳に登録されている満 18 歳以上の市民から無作為に抽出した男女 3,000 人	3,000 件	1,127 件	37.6%

6 調査結果の表示方法

回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。

差別や人権問題に対する考え方について

Q

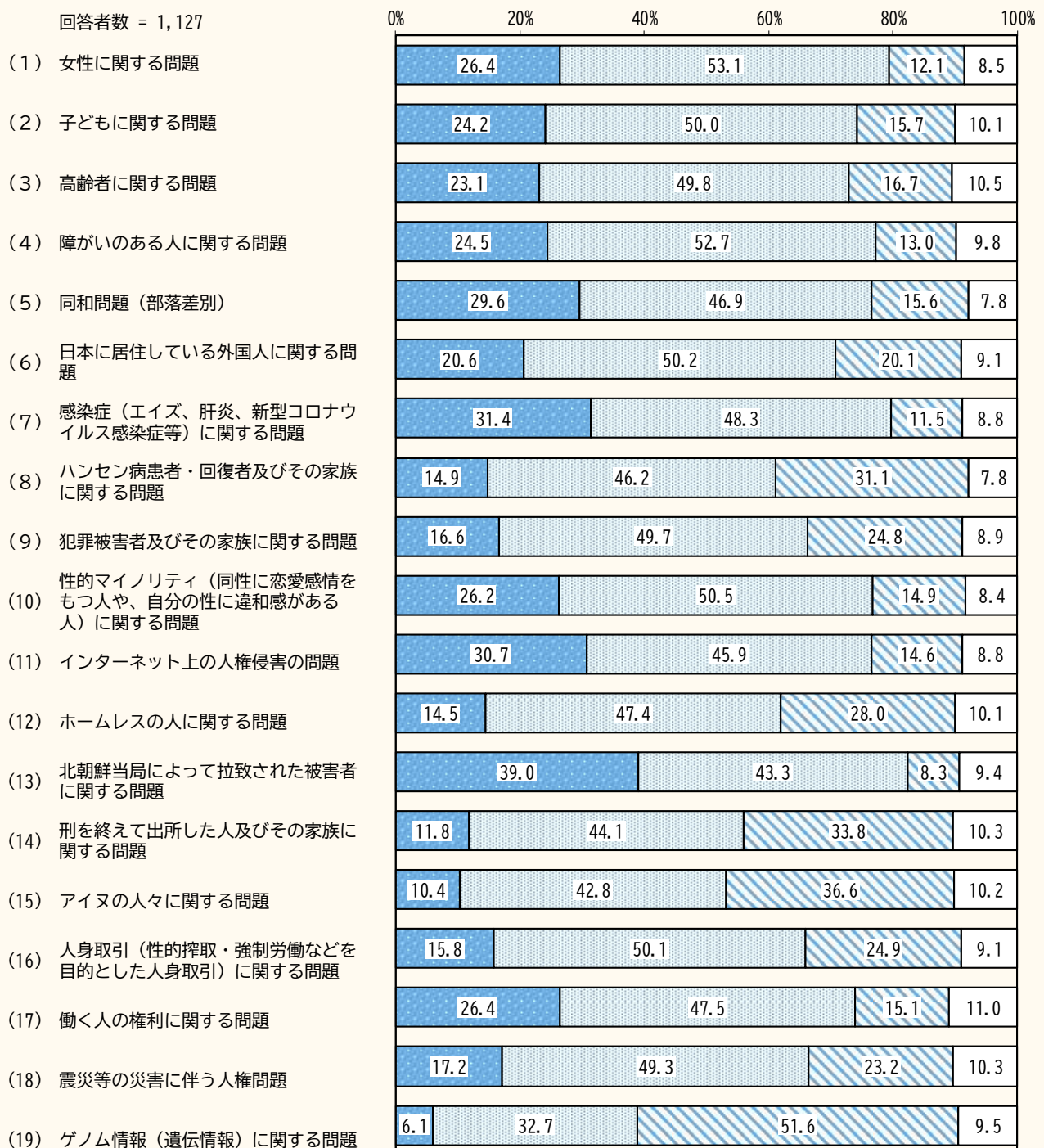
日本の社会には、人権にかかわるさまざまな問題があります。あなたはそれぞれの問題の内容を知っているか、また、関心があるか、あまり悩まず直感でお答えください。
【(1)～(19)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】【問4】

A 認知度

『(13) 北朝鮮当局によって拉致された被害者に関する問題』で「内容まで知っている」が、『(1) 女性に関する問題』で「聞いたことがあるが内容まで知らない」が、『(19) ゲノム情報（遺伝情報）に関する問題』で「知らない」が高くなっています。

■ 内容まで知っている □ 聞いたことがあるが内容まで知らない ▨ 知らない □ 無回答

回答者数 = 1,127



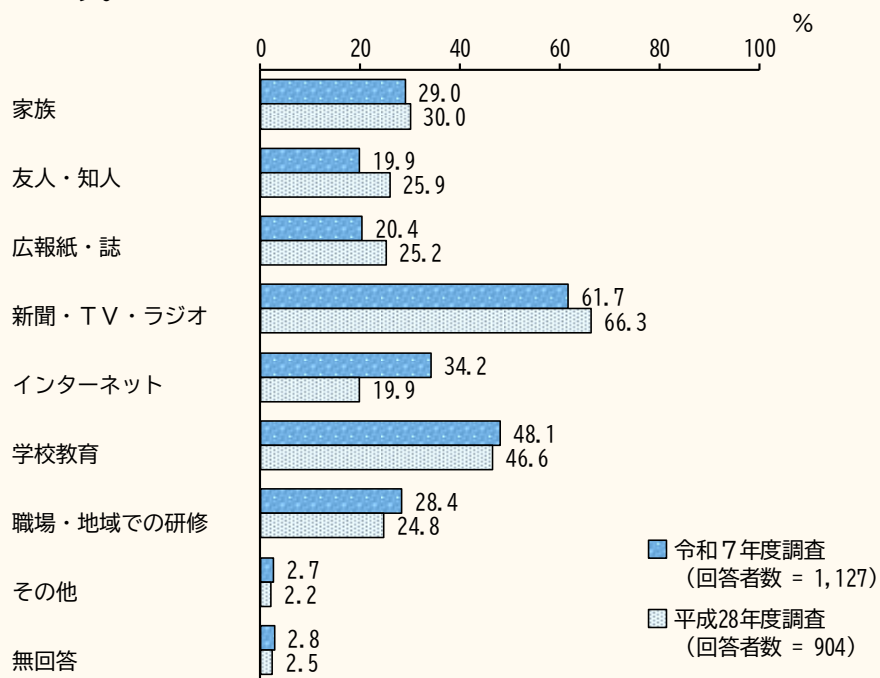


あなたは、人権問題についての情報や知識は主にどこで（何で）知りましたか。

【あてはまるものすべてに○】【問7】

「新聞・ＴＶ・ラジオ」の割合が61.7%と最も高く、次いで「学校教育」の割合が48.1%、「インターネット」の割合が34.2%となっています。

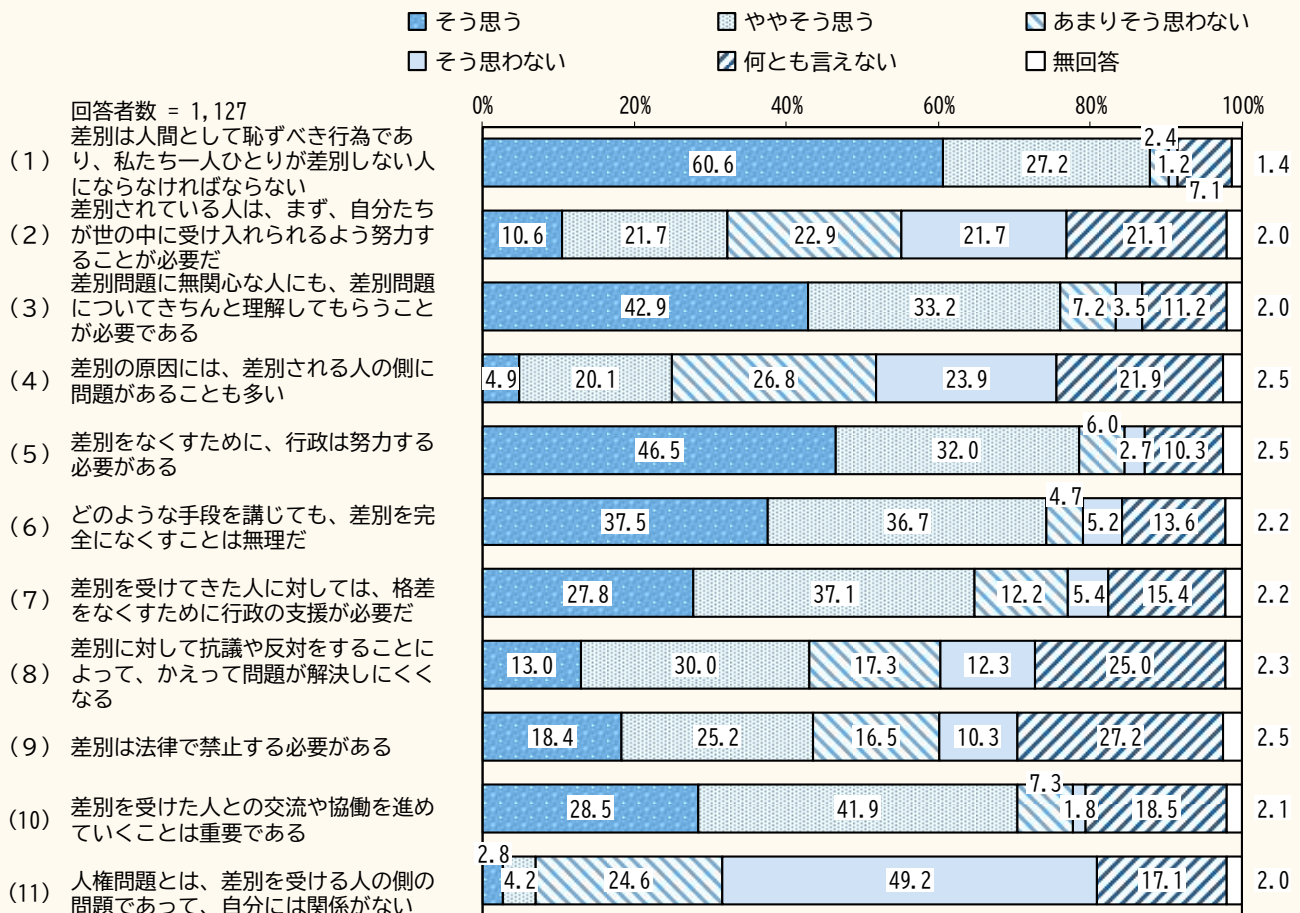
平成28年度調査と比較すると、「インターネット」の割合が増加しています。一方、「友人・知人」の割合が減少しています。





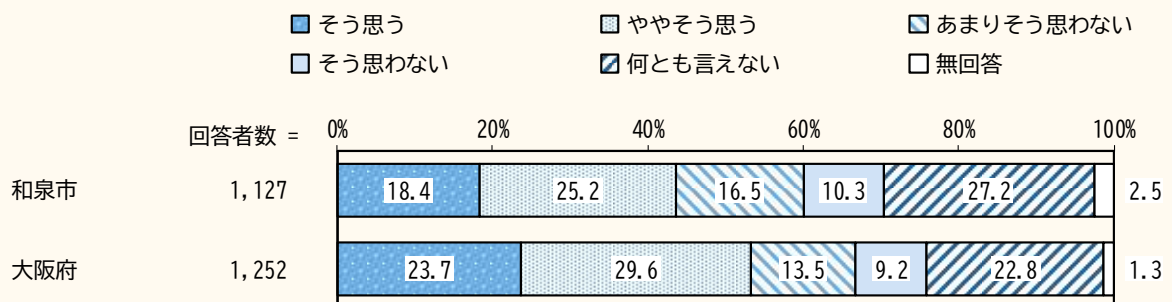
一般的に「差別」というものについて、あなたはどのようなお考えをお持ちですか。
【(1)～(11)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】【問6】

『(1) 差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない』で「そう思う」が、『(10) 差別を受けた人との交流や協働を進めていくことは重要である』で「ややそう思う」が、『(4) 差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い』で「あまりそう思わない」が、『(11) 人権問題とは、差別を受ける人の側の問題であって、自分には関係がない』で「そう思わない」が、『(9) 差別は法律で禁止する必要がある』で「何とも言えない」が高くなっています。



(9) 差別は法律で禁止する必要がある【府比較】

大阪府と比較すると、「そう思う」の割合が低くなっています。

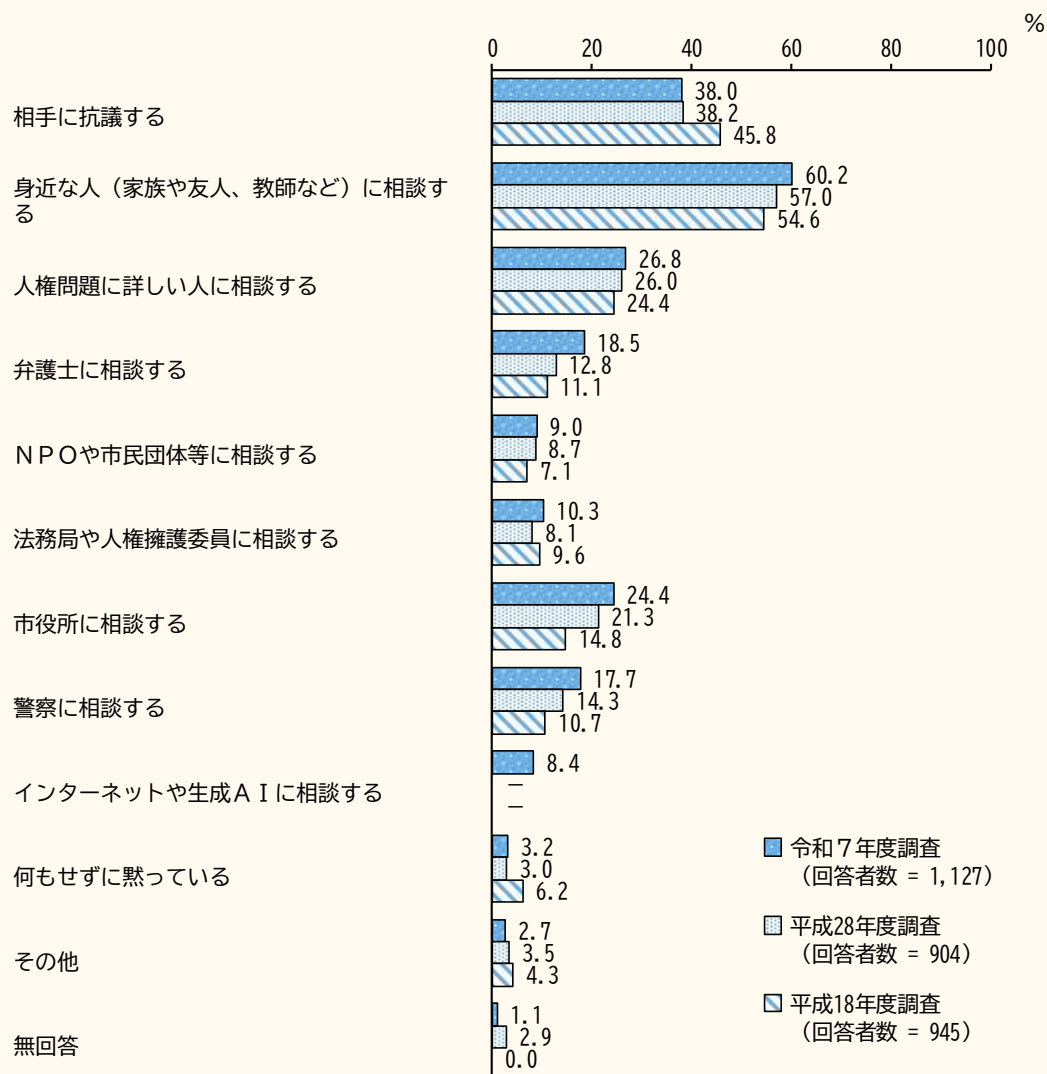




もし、あなた自身やあなたの家族が人権を侵害されるようなことがあったとき、あなたはどのように対応しますか。【あてはまるものすべてに○】【問 10】

「身近な人（家族や友人、教師など）に相談する」の割合が 60.2%と最も高く、次いで「相手に抗議する」の割合が 38.0%、「人権問題に詳しい人に相談する」の割合が 26.8%となっています。

過去調査と比較すると、平成 18 年度調査から「身近な人（家族や友人、教師など）に相談する」「弁護士に相談する」「市役所に相談する」「警察に相談する」の割合が増加しています。一方、「相手に抗議する」の割合が減少しています。



※平成 28 年度調査、平成 18 年度調査では、「インターネットや生成 A I に相談する」がありませんでした。

人権問題に対する行政の取組について

Q

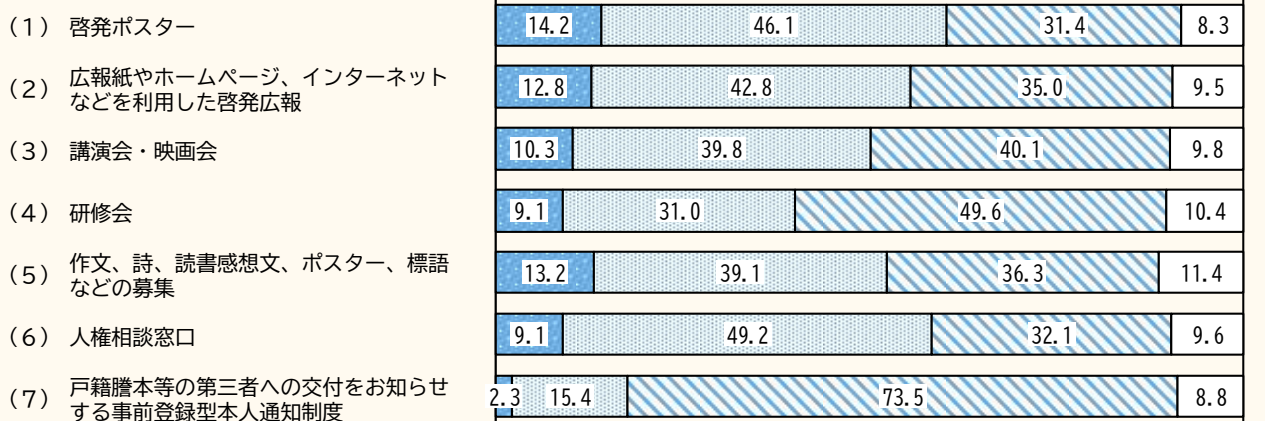
あなたは、人権問題の解決に向けた次のような施策を知っていますか。また、効果があると思いますか。【(1)～(7)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】【問11】

A 認知度

『(1) 啓発ポスター』で「内容まで知っている」が、『(6) 人権相談窓口』で「聞いたことがあるが、内容まで知らない」が、『(7) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度』で「知らない」が高くなっています。

■ 内容まで知っている ■ 聞いたことがあるが、内容まで知らない ■ 知らない □ 無回答

回答者数 = 1,127



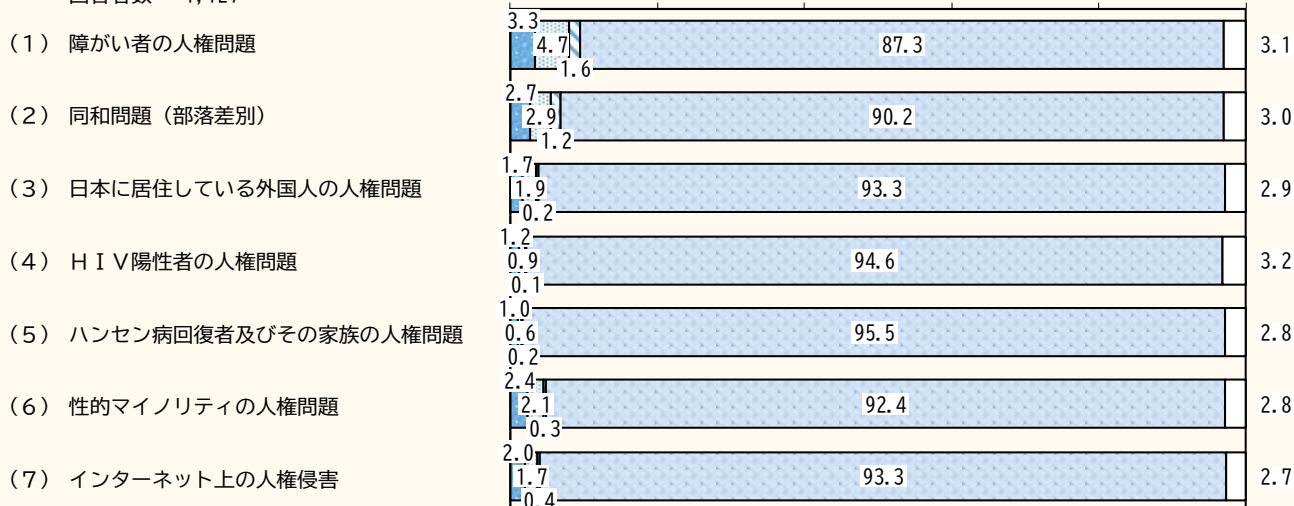
Q

あなたは、最近5年間で、次にあげる人権問題に関するイベント、講演会、研修会、学習会などに参加したことがありますか。【(1)～(7)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】【問13】

『(1) 障がい者の人権問題』で「1回だけ参加した」「2～4回くらい参加した」「5回以上参加した」が、『(5) ハンセン病回復者及びその家族の人権問題』で「参加したことがない」が高くなっています。

■ 1回だけ参加した ■ 2～4回くらい参加した ■ 5回以上参加した
■ 参加したことがない □ 無回答

回答者数 = 1,127



同和問題（部落差別）について

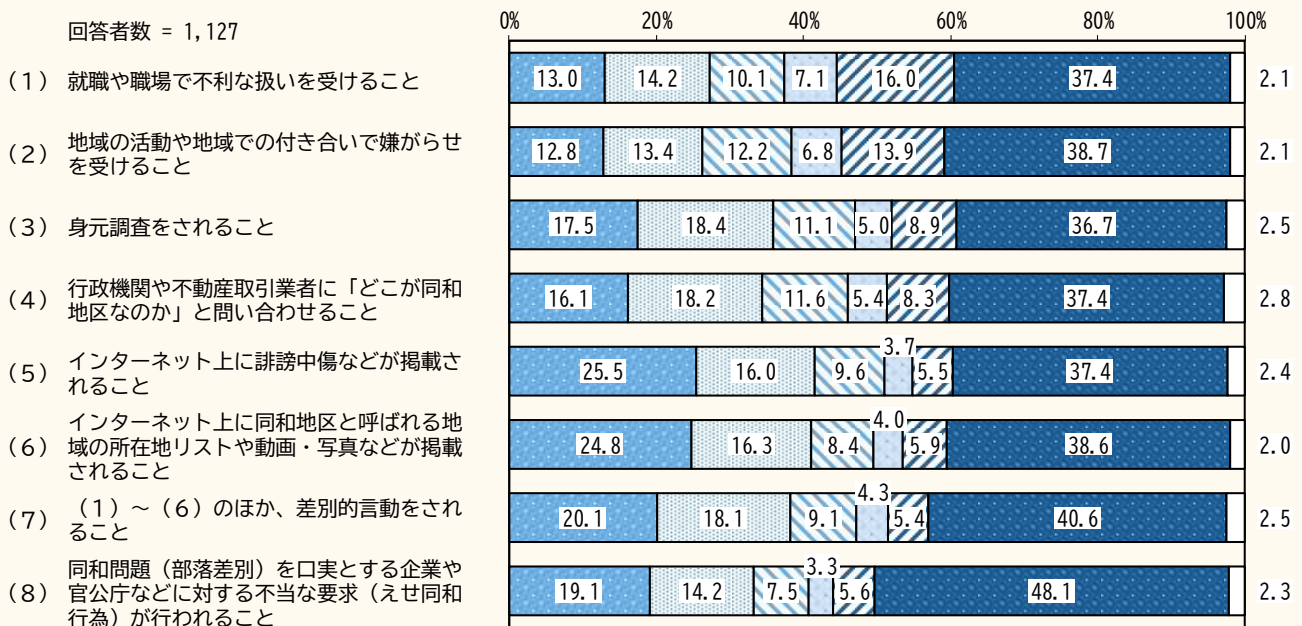
Q

あなたは、現在、同和問題（部落差別）に関して、次に見られるような人権侵害や問題などがあると思いますか。【(1)～(8)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】【問 21】

『(5) インターネット上に誹謗中傷などが掲載されること』で「あると思う」が、『(3) 身元調査をされること』で「どちらかといえばあると思う」が、『(2) 地域の活動や地域での付き合いで嫌がらせを受けること』で「どちらともいえない」が、『(1) 就職や職場で不利な扱いを受けること』で「どちらかといえばあると思わない」「あると思わない」が、『(8) 同和問題（部落差別）を口実とする企業や官公庁などに対する不当な要求（えせ同和行為）が行われること』で「わからない」が高くなっています。

☐ あると思う ☐ どちらかといえばあると思う ☐ どちらともいえない
☐ どちらかといえばあると思わない ☐ あると思わない ☐ わからない
☐ 無回答

回答者数 = 1,127



Q

就職や結婚の場面において、あなたは、同和問題（部落差別）に関連する人権問題がどの程度あると思いますか。【(1)と(2)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】【問 22】

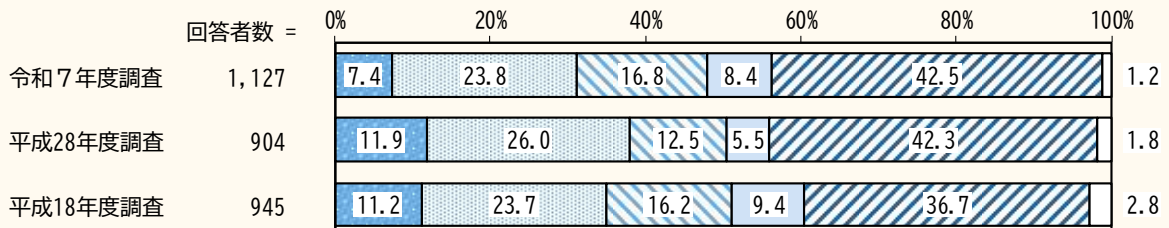
(1) 就職において

「差別はある」「どちらかといえば差別はある」を合わせた「差別はある」の割合が31.2%、「どちらかといえば差別はない」「差別はない」を合わせた「差別はない」の割合が25.2%となっています。

過去調査と比較すると、平成28年度調査から「差別はない」の割合が増加しています。

☐ 差別はある ☐ どちらかといえば差別はある
☐ どちらかといえば差別はない ☐ 差別はない
☐ わからない ☐ 無回答

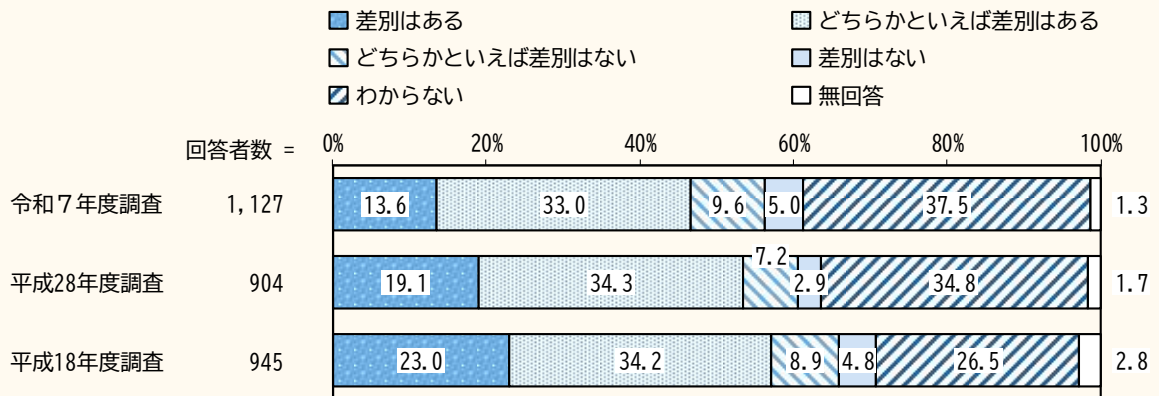
回答者数 =



(2) 結婚において

「差別はある」「どちらかといえば差別はある」を合わせた“差別はある”の割合が46.6%、「どちらかといえば差別はない」「差別はない」を合わせた“差別はない”の割合が14.6%となっています。

過去調査と比較すると、平成18年度調査から“差別はある”の割合が減少しています。



Q

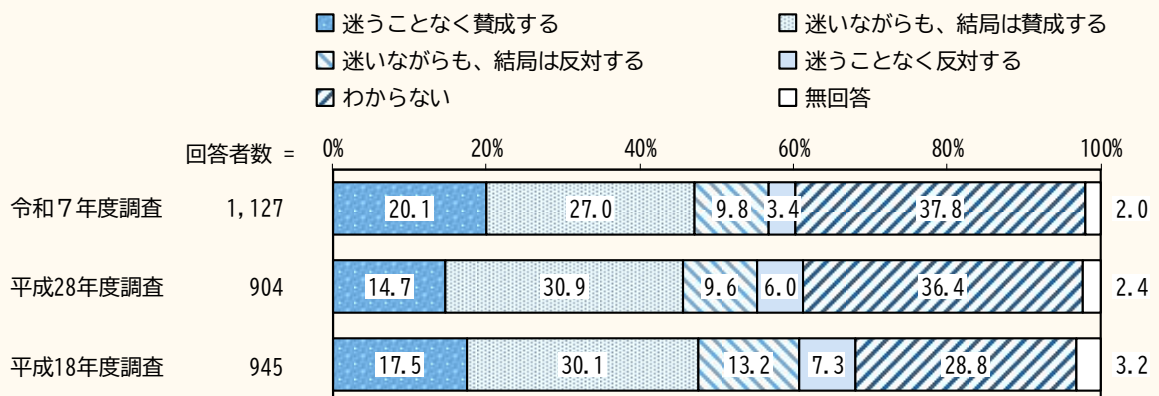
仮に、あなたの子ども（子どもがいない方は、いるものと仮定してください）が結婚しようとしている相手が同和地区の人だった場合、あなたは、親としてどのような態度をとりますか。また、あなたの親戚は、あなたやあなたの子どもに対してどのような態度をとると思いますか。【(1)と(2)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】

【問23】

(1) あなたが親として子どもに対してとる態度

「迷うことなく賛成する」「迷いながらも、結局は賛成する」を合わせた“賛成する”の割合が47.1%、「迷いながらも、結局は反対する」「迷うことなく反対する」を合わせた“反対する”の割合が13.2%となっています。

過去調査と比較すると、平成18年度調査から“反対する”の割合が減少しています。

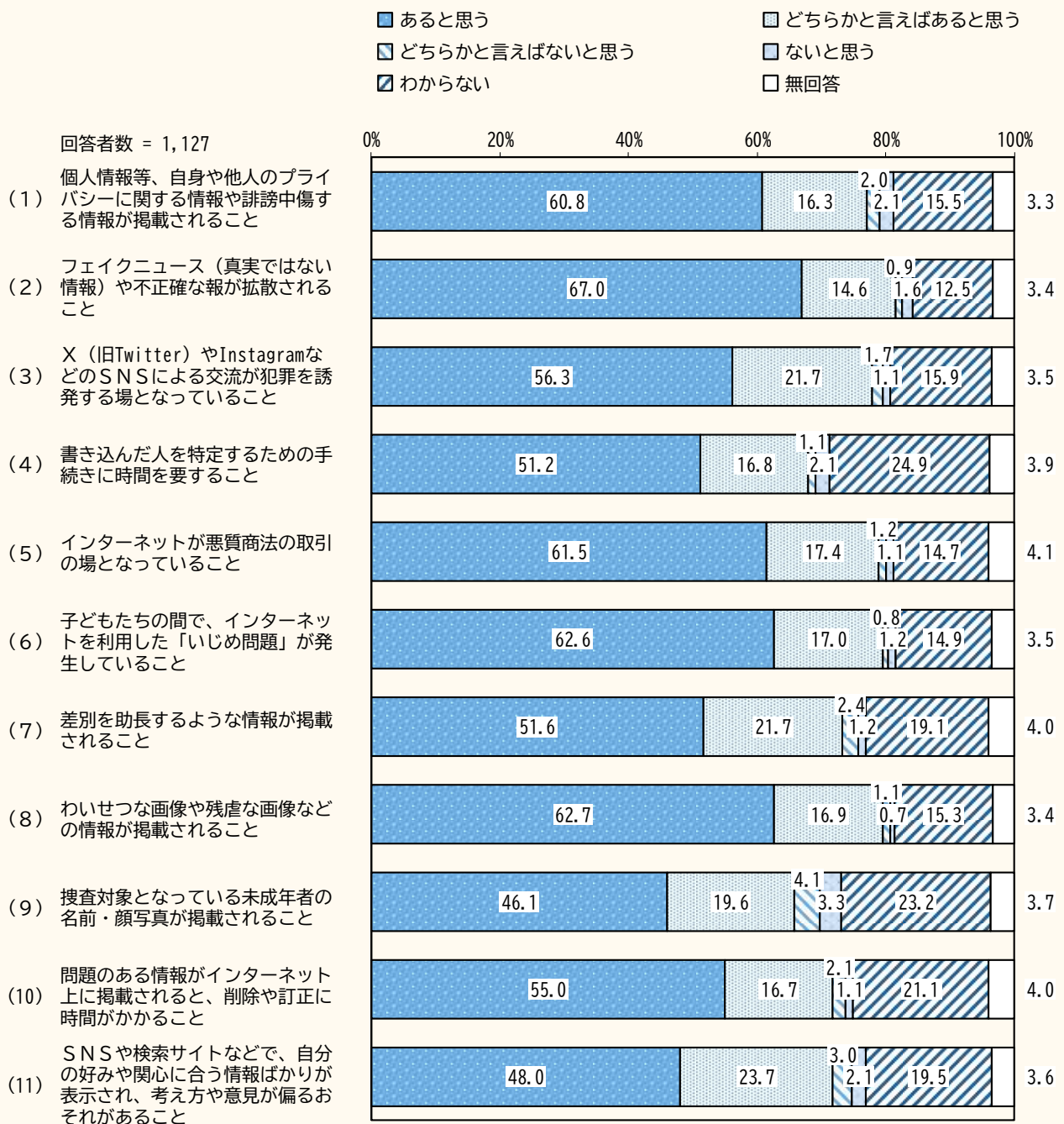


様々な人権課題について

Q

あなたは現在、インターネットに関して、次に見られるような人権侵害や問題などがあると思いますか。【(1)～(11)それぞれについて、あてはまるもの1つに○】【問26】

『(2) フェイクニュース（真実ではない情報）や不正確な情報が拡散されること』で「あると思う」が、『(11) SNSや検索サイトなどで、自分の好みや関心に合う情報ばかりが表示され、考え方や意見が偏るおそれがあること』で「どちらかと言えばあると思う」が、『(9) 捜査対象となっている未成年者の名前・顔写真が掲載されること』で「どちらかと言えばないと思う」「ないと思う」が、『(4) 書き込んだ人を特定するための手続きに時間を要すること』で「わからない」が高くなっています。



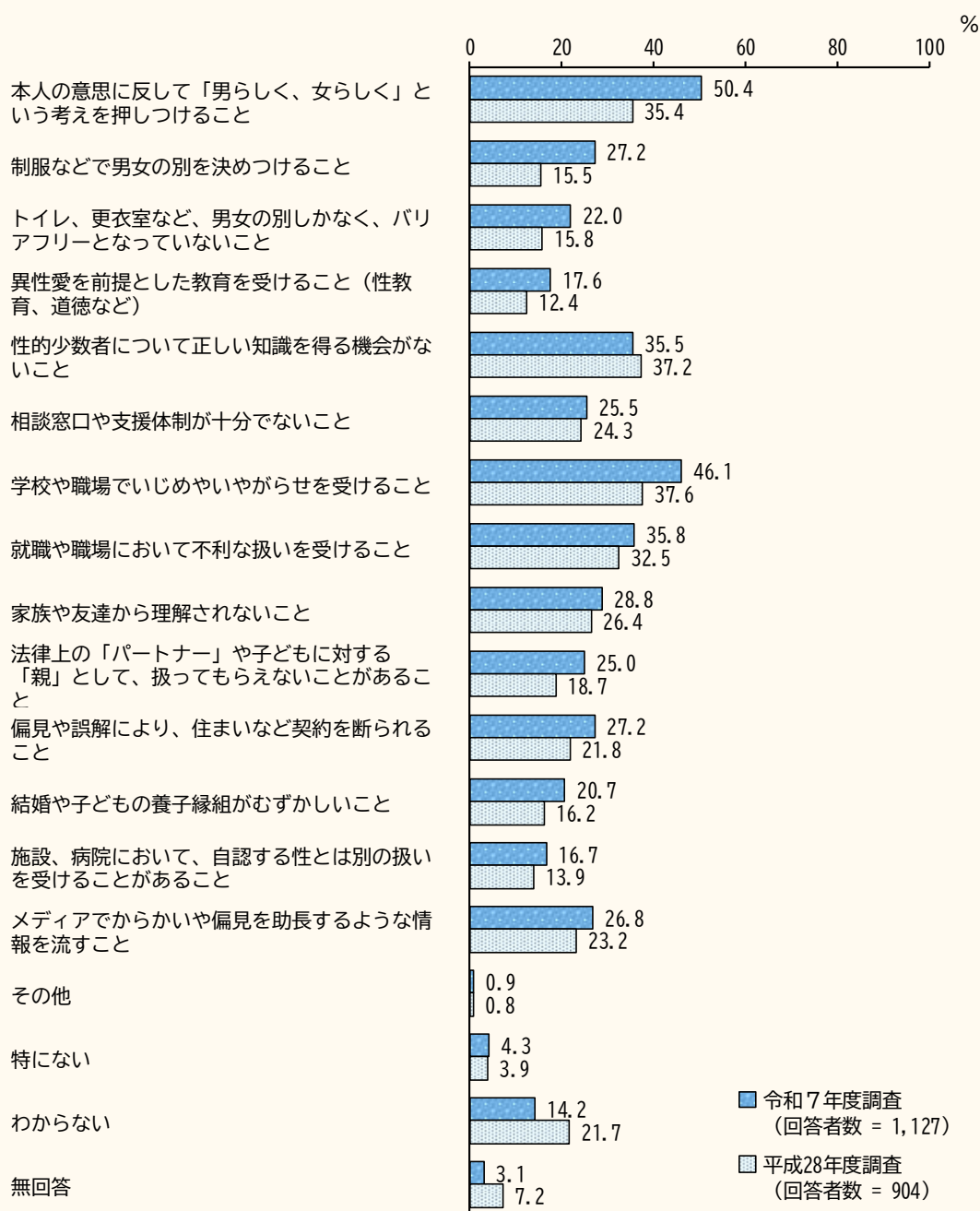


性的マイノリティの人々の人権についておたずねします。

性的マイノリティの人々に関する人権のことで、あなたが特に課題だと思われるのはどのようなことですか。【あてはまるものすべてに○】【問 28】

「本人の意思に反して「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること」の割合が 50.4%と最も高く、次いで「学校や職場でいじめやいやがらせを受けること」の割合が 46.1%、「就職や職場において不利な扱いを受けること」の割合が 35.8%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「本人の意思に反して「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること」「制服などで男女の別を決めつけること」「トイレ、更衣室など、男女の別しかなく、バリアフリーとなっていないこと」「異性愛を前提とした教育を受けること（性教育、道徳など）」「学校や職場でいじめやいやがらせを受けること」「法律上の「パートナー」や子どもに対する「親」として、扱ってもらえないことがあること」「偏見や誤解により、住まいなど契約を断られること」の割合が増加しています。



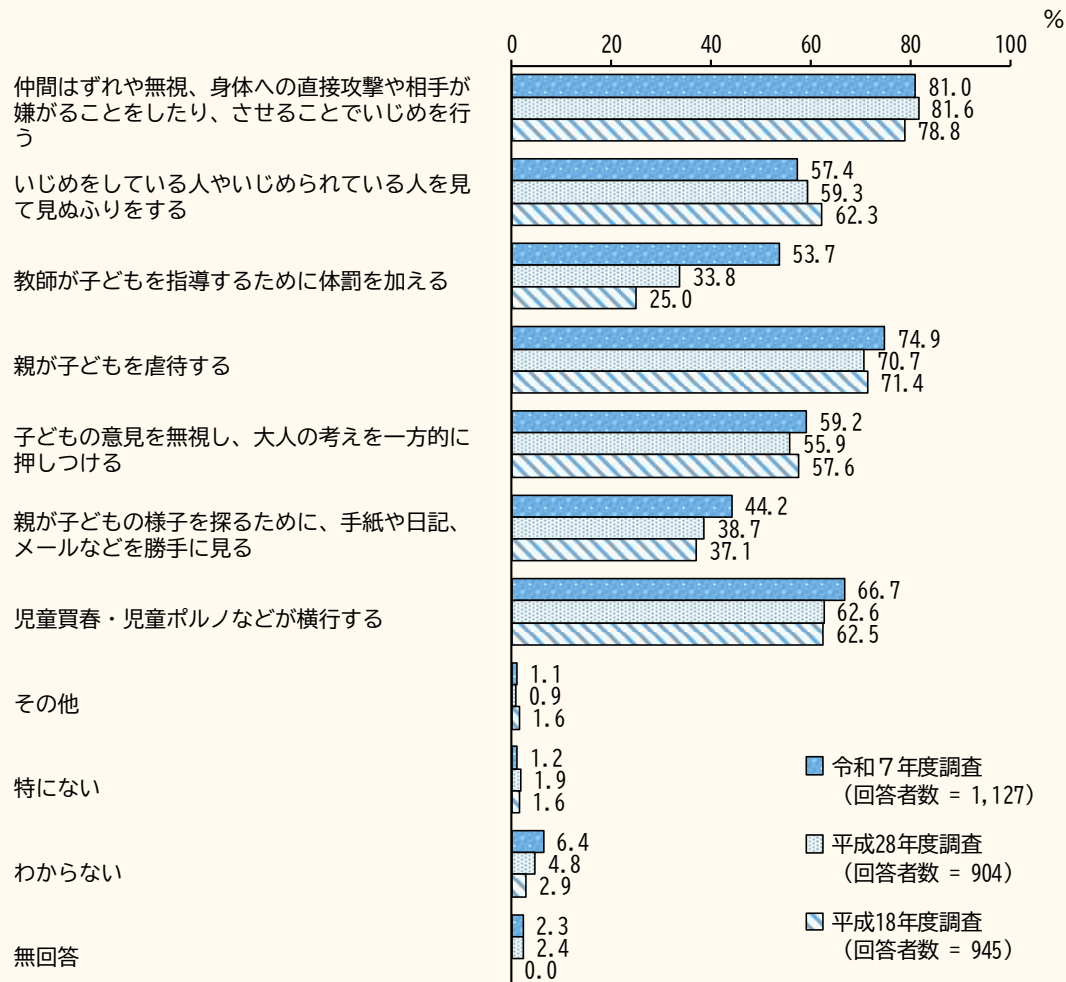
※平成 28 年度調査では、「相談窓口や支援体制が十分でないこと」が「相談場所がないこと」となっていました。



あなたは、子どもに関する事柄で、人権尊重の観点から見て問題があると思うのはどのようなことですか。【あてはまるものすべてに○】【問 29】

「仲間はずれや無視、身体への直接攻撃や相手が嫌がることをしたり、させることでいじめを行う」の割合が 81.0%と最も高く、次いで「親が子どもを虐待する」の割合が 74.9%、「児童買春・児童ポルノなどが横行する」の割合が 66.7%となっています。

過去調査と比較すると、平成 18 年度調査から「教師が子どもを指導するために体罰を加える」「親が子どもの様子を探るために、手紙や日記、メールなどを勝手に見る」の割合が増加しています。



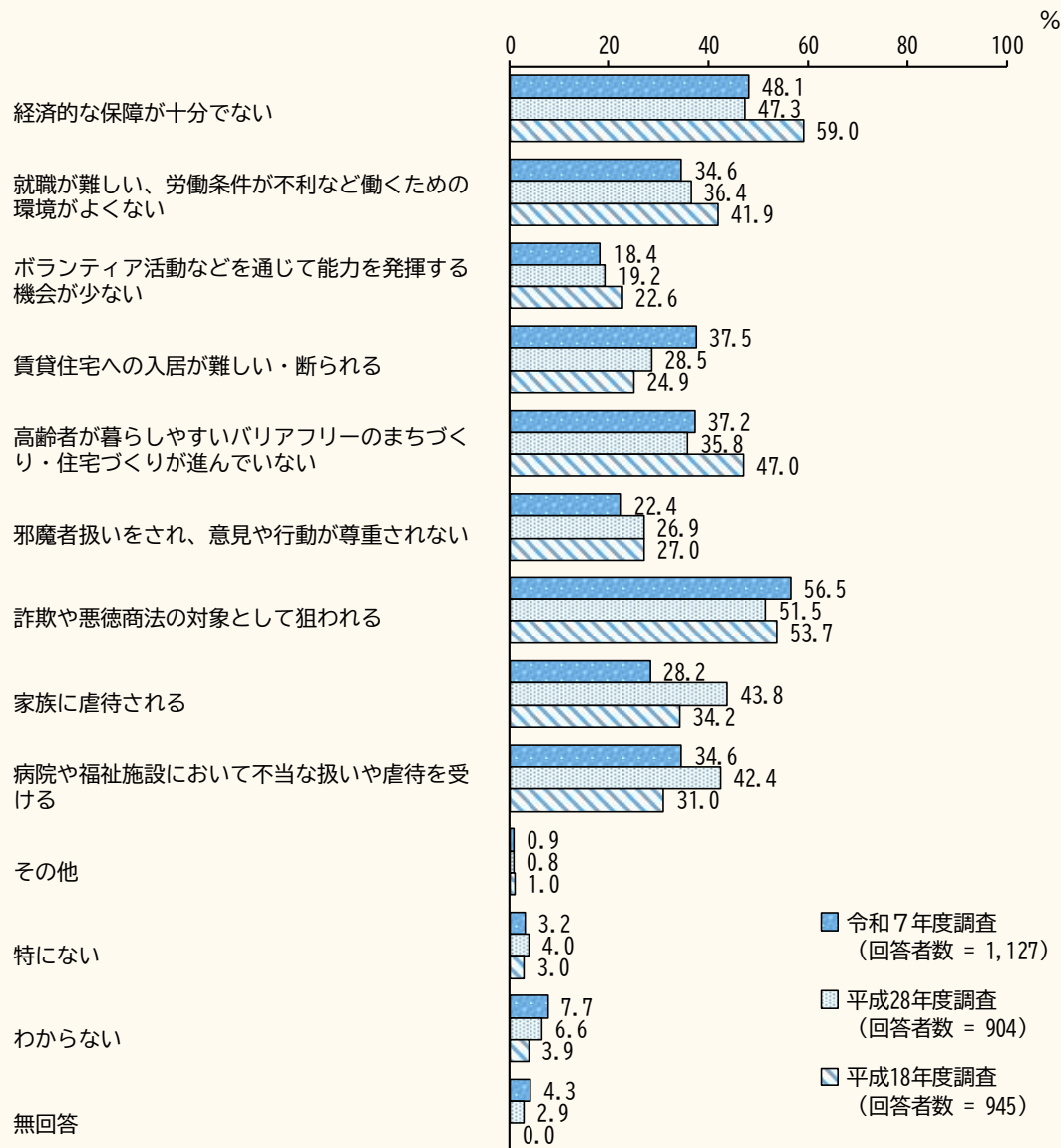


あなたは、高齢者に関する事柄で、人権尊重の観点から見て問題があると思うのはどのようなことですか。【あてはまるものすべてに○】【問 32】

「詐欺や悪徳商法の対象として狙われる」の割合が 56.5%と最も高く、次いで「経済的な保障が十分でない」の割合が 48.1%、「賃貸住宅への入居が難しい・断られる」の割合が 37.5%となっています。

過去調査と比較すると、平成 18 年度調査から「賃貸住宅への入居が難しい・断られる」の割合が増加しています。一方、「就職が難しい、労働条件が不利など働くための環境がよくない」の割合が減少しています。

また、平成 28 年度調査から「家族に虐待される」「病院や福祉施設において不当な扱いや虐待を受ける」の割合が減少しています。



※平成 28 年度調査、平成 18 年度調査では、「家族に虐待される」が「家族に介護を放棄されたり、虐待されたりする」となっていました。

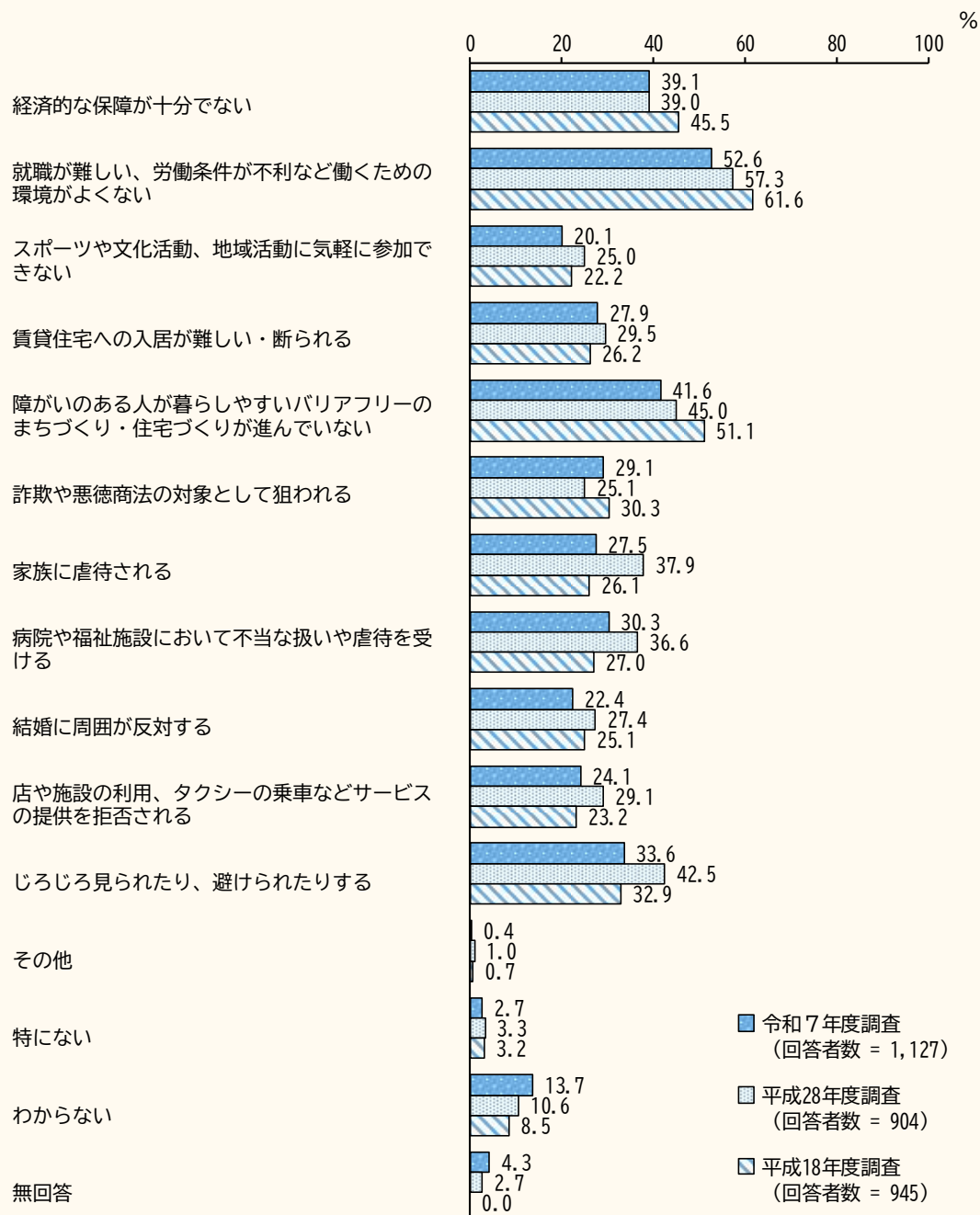


あなたは、障がいのある人に関する事柄で、人権尊重の観点から見て問題があると思うのはどのようなことですか。【あてはまるものすべてに○】【問 34】

「就職が難しい、労働条件が不利など働くための環境がよくない」の割合が 52.6%と最も高く、次いで「障がいのある人が暮らしやすいバリアフリーのまちづくり・住宅づくりが進んでいない」の割合が 41.6%、「経済的な保障が十分でない」の割合が 39.1%となっています。

過去調査と比較すると、平成 18 年度調査から「就職が難しい、労働条件が不利など働くための環境がよくない」「障がいのある人が暮らしやすいバリアフリーのまちづくり・住宅づくりが進んでいない」の割合が減少しています。

また、平成 28 年度調査から「家族に虐待される」「病院や福祉施設において不当な扱いや虐待を受ける」「じろじろ見られたり、避けられたりする」の割合が減少しています。



身の周りの人権侵害について

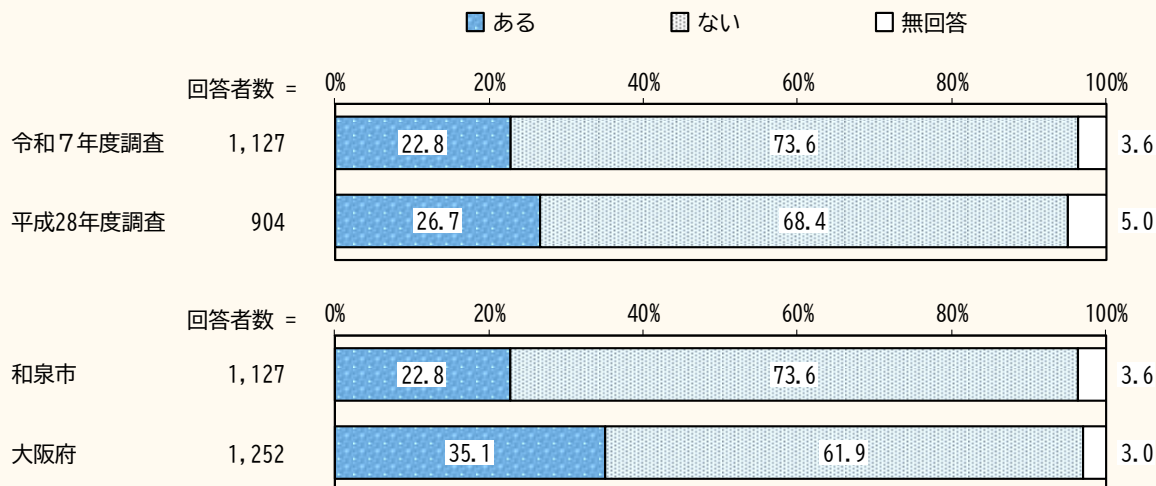
Q

あなたは、最近5年間に人権上、問題と思われる言動を身近で見聞きしたことがありますか。複数ある場合は、一番印象に残っているものについてお答えください。【どちらかに○】【問 37】

「ある」の割合が 22.8%、「ない」の割合が 73.6%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「ない」の割合が増加しています。

大阪府と比較すると、「ある」の割合が低くなっています。

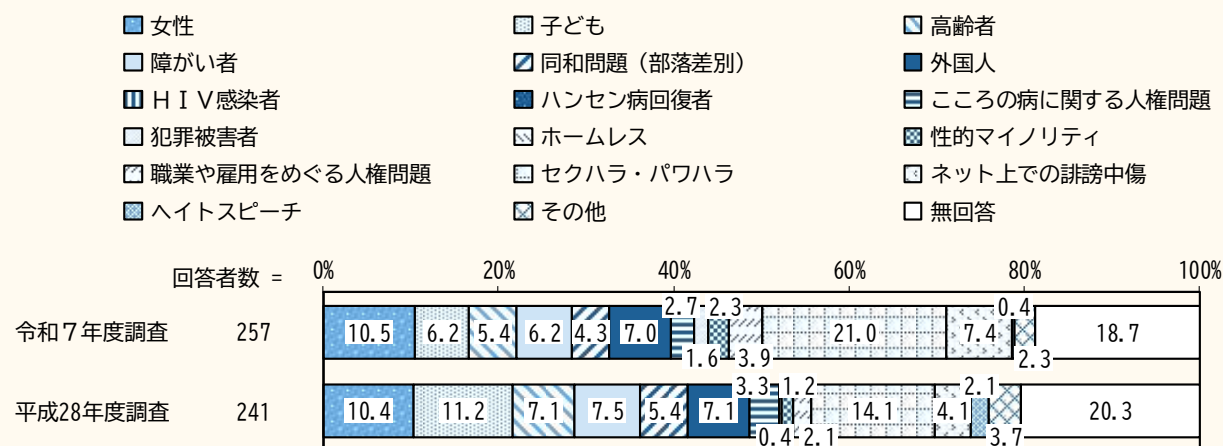


Q

それはどのような人権問題に関するものでしたか。【あてはまるもの1つに○】【問 37-1】

「セクハラ・パワハラ」の割合が 21.0%と最も高く、次いで「女性」の割合が 10.5%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「セクハラ・パワハラ」の割合が増加しています。



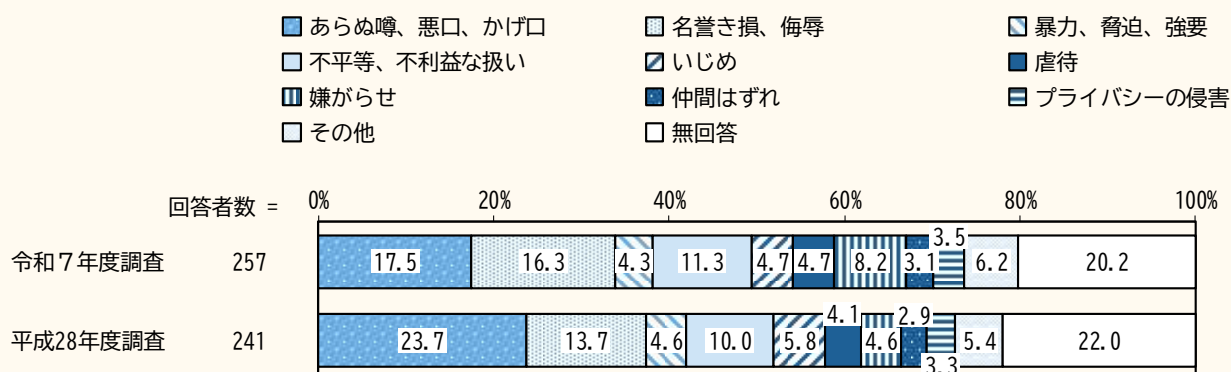
※平成 28 年度調査では、「H I V感染者」と「ハンセン病回復者」が「H I V感染者・ハンセン病回復者」となっていました。

Q

それはどのような内容でしたか。【あてはまるもの1つに○】【問37-2】

「あらぬ噂、悪口、かげ口」の割合が17.5%と最も高く、次いで「名誉き損、侮辱」の割合が16.3%、「不平等、不利益な扱い」の割合が11.3%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「あらぬ噂、悪口、かげ口」の割合が減少しています。

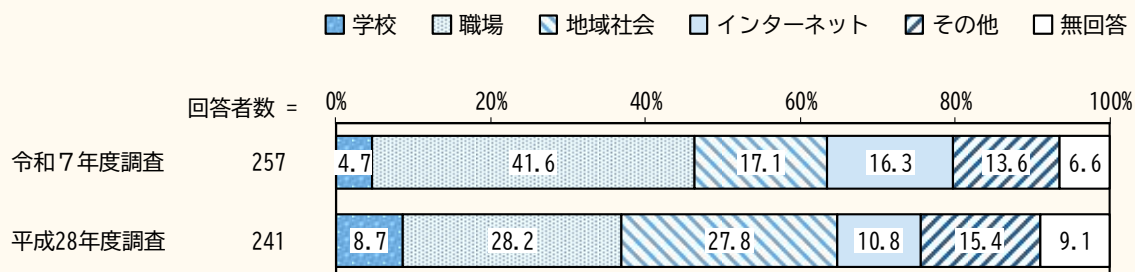


Q

それはどこで見聞きしましたか。【あてはまるもの1つに○】【問37-3】

「職場」の割合が41.6%と最も高く、次いで「地域社会」の割合が17.1%、「インターネット」の割合が16.3%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「職場」「インターネット」の割合が増加しています。一方、「地域社会」の割合が減少しています。



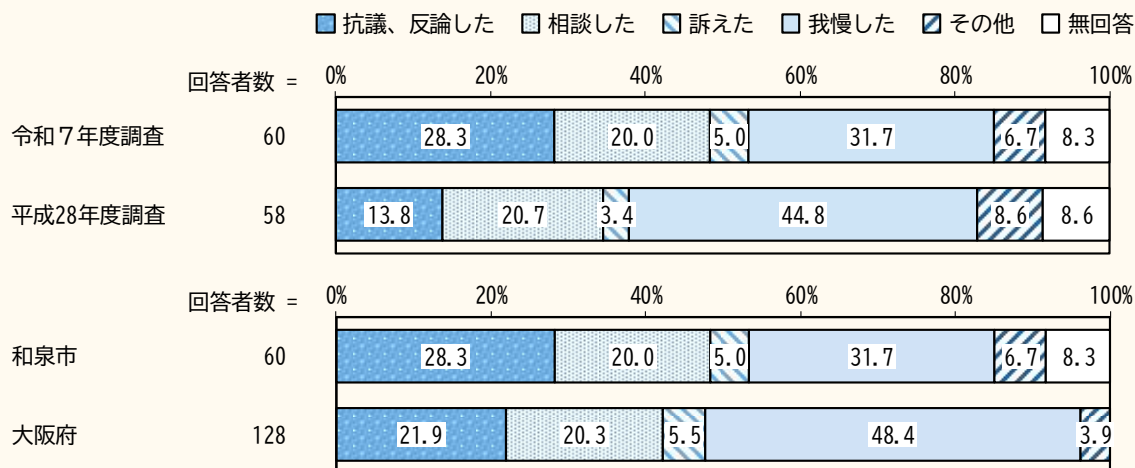
Q

どう対応しましたか。【あてはまるもの1つに○】【問37-5a】

「我慢した」の割合が31.7%と最も高く、次いで「抗議、反論した」の割合が28.3%、「相談した」の割合が20.0%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「抗議、反論した」の割合が増加しています。一方、「我慢した」の割合が減少しています。

大阪府と比較すると、「抗議、反論した」の割合が高くなっています。



※大阪府では、「相談した」が「相談（通報）した」となっていました。

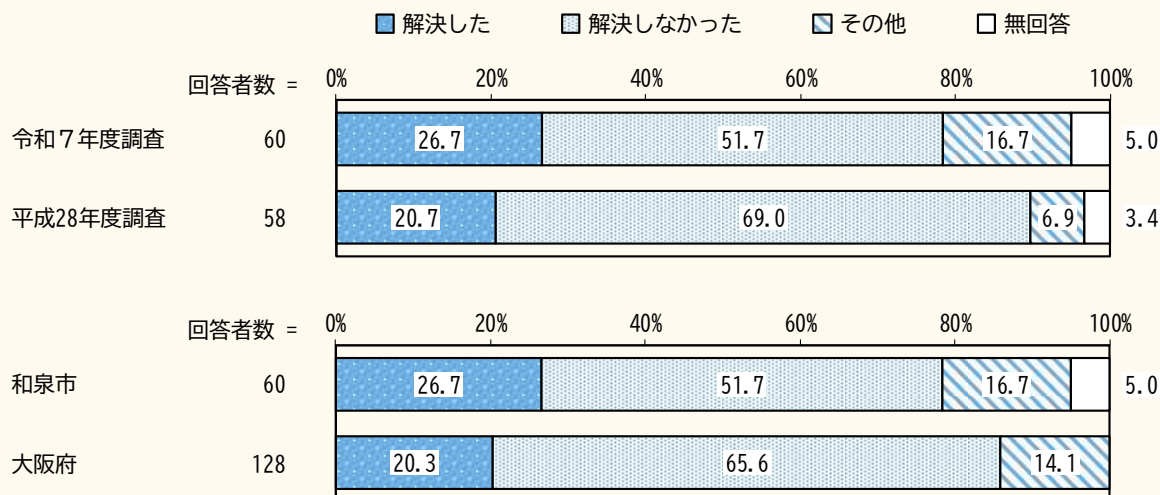
Q

最終的に解決しましたか。【あてはまるもの1つに○】【問37-6a】

「解決した」の割合が26.7%、「解決しなかった」の割合が51.7%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「解決しなかった」の割合が減少しています。

大阪府と比較すると、「解決した」の割合が高くなっています。

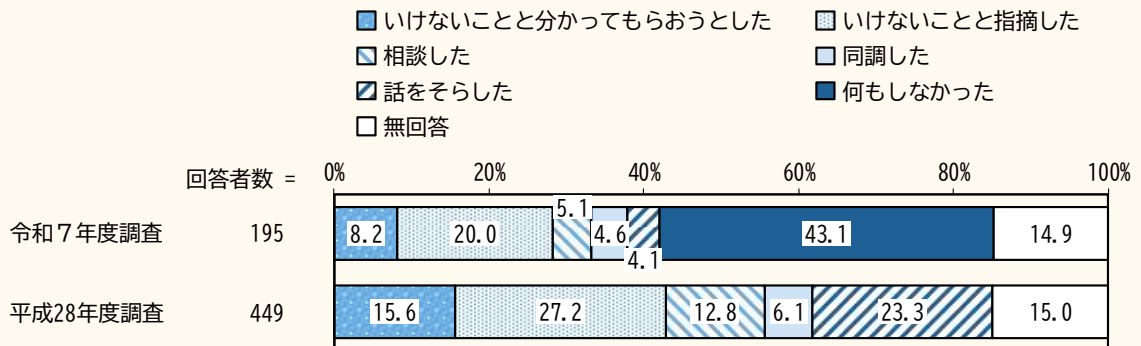


Q

どう対応しましたか。【あてはまるもの1つに○】【問37-5b】

「何もしなかった」の割合が43.1%と最も高く、次いで「いけないことと指摘した」の割合が20.0%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「いけないことと分かってもらおうとした」「いけないことと指摘した」「相談した」「話をそらした」の割合が減少しています。



※平成28年度調査では、「何もしなかった」がありませんでした。

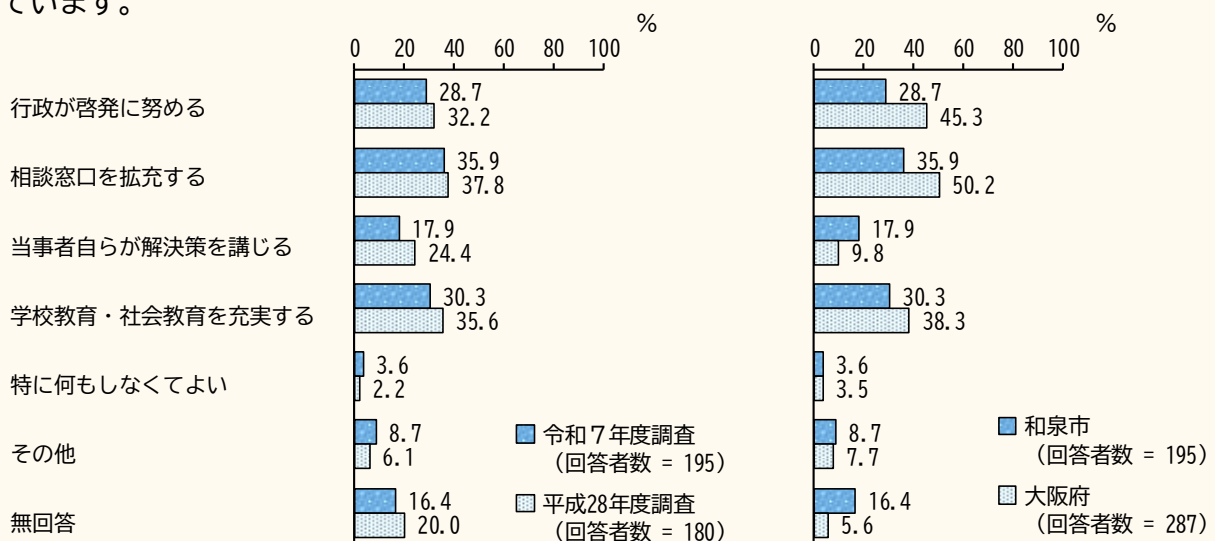
Q

そのような問題（事案）についてどうしたらよいと考えますか。【あてはまるものすべてに○】【問37-6b】

「相談窓口を拡充する」の割合が35.9%と最も高く、次いで「学校教育・社会教育を充実する」の割合が30.3%、「行政が啓発に努める」の割合が28.7%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「当事者自らが解決策を講じる」「学校教育・社会教育を充実する」の割合が減少しています。

大阪府と比較すると、「当事者自らが解決策を講じる」の割合が高くなっています。一方、「行政が啓発に努める」「相談窓口を拡充する」「学校教育・社会教育を充実する」の割合が低くなっています。



※大阪府では、「行政が啓発に努める」が「さまざまな人権問題をめぐる誤解や偏見、差別をなくし、一人ひとりの人権意識を高めるために、行政が正しい知識と理解を深める人権啓発に努める」、「相談窓口を拡充する」が「人権侵害を受けた当事者が救済されるよう人権課題に対応する専門の相談機関・相談窓口を拡充する」、「当事者自らが解決策を講じる」が「人権侵害を受けた当事者自らが解決策を講じる」、「学校教育・社会教育を充実する」が「発達段階に応じた学校における人権教育や、地域や職場における人権研修を充実する」となっていました。